

「常用漢字(音訓・付表)」の変更について(案)

I 音訓について

<音訓の追加等>

- | | |
|-------------------|--|
| 1 愛 (訓: え) | ※ 「愛媛」に対応するための追加, 1字下げ |
| 2 委 (訓: ゆだねる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 3 育 (訓: はぐくむ) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 4 応 (訓: こたえる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 5 神 (訓: か) | ※ 「神奈川」に対応するための追加, 1字下げ |
| 6 滑 (音: コツ) | ※ 「稽」が入るので、「滑稽」に対応するための追加 |
| 7 関 (訓: かかわる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 8 館 (訓: やかた) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 9 堪 (=語例追加) | ※ 音「カン」の語例として「堪能」を追加し, その備考欄
に<「堪能」は, 「タンノウ」とも。>と注記 |
| 10 岐 (音: ギ) | ※ 「岐阜」に対応するための追加, 1字下げ |
| 11 混 (訓: こむ) | ※ 「込む」との関係をどうとらえるか
→①訓「こむ」を立て, 語例に「混む, 混み合う, 人混み」を掲げる。備考欄
には<「混み合う」「人混み」は, 「込み合う」「人込み」とも。>と注記
②「込」の訓「こむ」はそのまま残すが, 語例欄から「人込み」を削除 |
| 12 私 (訓:わたし) | ※ 追加するか, 「わたくし」と入れ替えるか
→○訓「わたし」を追加し, 訓「わたくし」はそのまま残す |
| 13 児 (訓: ご) | ※ 「鹿児島」に対応するための追加, 1字下げし, 語例欄
に「稚児」を掲げる。「鹿児島」は備考欄には入れない。 |
| 14 滋 (音: シ) | ※ 「滋賀」に対応するための追加, 1字下げ |
| 15 臭 (訓: におう) | ※ 「匂 (におう)」に対応するための追加 |
| 16 十 (=備考欄に注記) | ※ 音「ジッ」の備考欄に<「ジュッ」とも。>と注記 |
| 17 旬 (音: シュン) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 18 城 (訓: き) | ※ 「茨城・宮城」に対応するための追加, 1字下げ |
| 19 伸 (訓: のべる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 20 振 (訓: ふれる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 21 粹 (訓: いき) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 22 逝 (訓: いく) | ※ 「逝った (=いった)」に対応するための追加 |
| 23 拙 (訓: つたない) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 24 創 (訓: つくる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 25 速 (訓: はやまる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 26 分 (訓: いた) | ※ 「大分」に対応するための追加, 1字下げ |
| 27 放 (訓: ほうる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 28 癒 (訓: いえる・いやす) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |

- 29 要 (訓: かなめ) ※ 追加するか
 → ○訓「かなめ」を追加し、語例欄には「要」を掲げる
- 30 良 (音: ラ) ※ 「奈良」に対応するための追加、1字下げ
 31 絡 (訓: からめる) ※ 音訓の使用実態に基づいて追加
 32 力 (力む=リキむ) ※ 凡例に中で、使用できることを記述
 → ○<「愛」 ⇄ 「愛する」>, <「案」 ⇄ 「案じる・案する」>などとの関係
- 33 務 (訓: つとまる) ※ 音訓の使用実態に基づいて追加
 34 全 (訓: すべて) ※ 音訓の使用実態に基づいて追加
 35 都道府県名の扱い ※ 岐阜の「阜」のように、都道府県名にのみ使われる音訓に対して、備考欄に「岐阜県」と注記。語例欄は空欄とする
 → 「東京」「群馬」などは注記しないが、「大分」などは訓「分(いた)」の備考欄に「大分県」と注記する

<音訓の削除>

- 1 痞 (訓: つからす) ※ 音訓の使用実態に基づいて削除
 P37 <なつける=懐ける>, P38 <おののおの=各・各々>,
 P87 <ちぢらす=縮らす>, P101 <きよまる=清まる>,
 P122 <ひくまる=低まる>, P138 <つからす=疲らす>,
 P154 <あかるむ=明るむ>, P164 <となる=隣る>

II 付表について

<語の追加(追加字種関係)>

- 1 尻尾 (付表: しっぽ) ※ 音訓の使用実態に基づいて追加
 2 固唾 (付表: かたず) ※ 音訓の使用実態に基づいて追加
 3 鍛冶 (付表: かじ) ※ 音訓の使用実態に基づいて追加
 4 弥生 (付表: やよい) ※ 音訓の使用実態に基づいて追加

<変更(現行付表関係)>

- 1 居士 (付表: こじ) ※ 「一言居士」を「居士」に変更
 2 五月 (付表: さつき) ※ 「五月晴れ」を「五月」に変更
 3 (お) 母さん (付表) ※ 「お母さん」を「(お) 母さん」に変更
 4 (お) 父さん (付表) ※ 「お父さん」を「(お) 父さん」に変更
 5 (お) 兄さん (付表) ※ 「兄さん」を「(お) 兄さん」に変更
 6 (お) 姉さん (付表) ※ 「姉さん」を「(お) 姉さん」に変更
 7 稚児 (付表: ちご) ※ 「稚児」が語例欄に入るので、付表から削除

- 8 付表の扱いの変更 → 付表に挙げられている語を構成要素として使用することも可能であることを明記する
 (例) 「河岸 (かし)」を「魚河岸 (うおがし)」, 「心地 (ここち)」を「居心地 (いごこち)」として使う